

魂に響く和太鼓の音！善通寺に生まれ世界で活躍する太鼓集団

今や四国を代表する和太鼓集団
「善通寺龍神太鼓」

昭和47年の発足以来、
善通寺市の新しい郷土芸能として
市や市内の企業・団体が
開催するイベントはもとより
日本全国、さらには中国、
韓国、アメリカなど
外国にも活動の場を広げ、
その精力的な活動から
平成2年に善通寺市功労者表彰を受賞。
2000年を迎えた今年、
日本コロムビアよりCDデビュー。
メジャーの仲間入りを果たしたことで、
プロ意識が芽生え
今後ますます活躍が期待される。



創設28年目を迎えた善通寺龍神太鼓

太鼓もない素人集団

善通寺龍神太鼓は昭和47年主宰の石井さんの呼びかけで、太鼓の好きな人たちが集まって創設されました。

石井さんは、学生時代にエレキバンドで音楽活動をしていましたが、ある時和太鼓のコンサートを観て、圧倒的な和太鼓の力強さに感動し、どうしても太鼓をやりたいと思ったそうです。

スタート当時の様子を石井さんは「それまでもお囃子の太鼓などを叩いていたんですが、太鼓だけで観客を魅了したかった。しかし、仲間と太鼓集団を結成したものの、肝心の太鼓もなく、各地区の獅子舞で使っている太鼓を借りて来て練習を重ねていたんですよ。ところが、演奏に熱中するあまりか、たびたび太鼓の皮を破いてしまうんです。そのたび張り替えながら練習をしましたが、張り替えに

もかなりの金額を要するので、いつそのこと太鼓を買おうとなつたわけです。当時のメンバーで百万円を銀行から借りて。必死でしたよ、当時の百万円は大金でしたから」と振り返ります。

あこがれの舞台で演奏

その後、どんな実力をつけた善通寺龍神太鼓は、昭和56年に結成十周年記念として、中国の「万里の長城」で演奏。

「後にも先にもそこに楽器を持ち込んで演奏したのは私らだけ



毎週、市民会館で練習。本番さながらの気合が伝わる。



善通寺龍神太鼓
主宰 石井 響宇山(きょうざん)さん
(本名 石井 修三 稲木町)

大きく育つ 龍神の子どもたち

石井さんは善通寺龍神太鼓の主宰を務めながら、後継者の育成にも力を注いでいます。

「善通寺龍神子供太鼓真魚」は、平成2年に結成され、空海誕生の地、善通寺市の子どもたちが、空海の幼名「真魚」を拝するもので、龍神太鼓の子ども版というべき集団です。日本古来の楽器である和太鼓の音と精神を訴えるために練習に励んでいます。

平成11年3月には、四国の子ども太鼓の代表として第一回自治大臣杯日本太鼓ジュニアコンクールに出場、平成12年の第二回全国大会にも連続出場しました。

また、「真魚」のメンバーの



新たな伝説をつくる、勇壮な善通寺五岳太鼓

中から選ばれた中学二・三年生が「善通寺五岳太鼓」へと進みます。これは高校生から入門できる龍神太鼓へのステップという位置にあります。その独特な面と衣装は、讃岐に伝わる伝説に出てくる「小鳥(こがらす)」をかたどった若者が、五穀豊穡と悪魔祓いを祈願して力強く振り舞う様子を太鼓に表現しているものです。

念願かないCDデビュー



大人には負けないと、迫力ある子供太鼓真魚

龍神太鼓は、このたび日本コロムビアからCDを発売しました。石井さんは「CD発売でメジャーデビューを果たし、悲願を達成しました。これを契機にメンバー全員にプロ意識が芽生え、甘えは許されなと思うようになりまし。今後ますますらしい演奏で市民のみなさんの期待に応えるようがんばります」と、喜びを語ります。

また、「現在は、迫力ある音でリズムを楽しむ太鼓が主流ですが、我々は音差を使った組太鼓で勝負。音と音のからみを楽しんでほしい」と、龍神太鼓ならではの音とCDの完成度にも自信が伺えます。

グループ名に「善通寺」を掲げ

全国のステージで演奏すると、多くの人たちから、「善通寺」という地名は歴史を感じ、重みのある名前ですねと、声をかけられるそうです。最後に、「今後ともこの歴史ある『善通寺』の名に恥じぬよう、全力を込めて演奏し、聞く人に感動を与えたい。同時に善通寺の名を広く全国に紹介したい」また、以前に宮下市長から、「長く郷土を離れていたの、善通寺市にこんなに素晴らしい太鼓集団があるとは知らなかった。龍神太鼓は善通寺市の財産です」と、賞賛の言葉をいただいたことが、現在も活動の励みになっていると喜びを語ってくれました。

問い合わせ

石井 修三 ☎0403

